

## 世帯と人口

(9月1日現在)

世帯 42,841 (+72)  
 人口 117,270人 (+115)  
 男 60,150人 (+54)  
 女 57,120人 (+61)

# えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231-2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

処理機に生ごみを入れておよそ5時間、粗い粉状の製品ができる



# もったいないをリサイクル

食品に限らず、まだ使えるもの、質の良いものがごみとして大量に処分されている現実をみると、リサイクルできないか、判断して行動すること。新しい世紀、豊かな環境のために不可欠なのではないでしょうか。

食品に限らず、まだ使えるもの、質の良いものがごみとして大量に処分されている現実をみると、捨てる前に、リサイクルできないか、判断して行動すること。新

しい世紀、豊かな環境のために不可欠なのではないであります。

「もったいない」が減る」という実験結果が、肥料としても、作物が元気になった、と評判は上々。近くホームセンターなどの店頭に並ぶことになりそうです。

悩みは、処理量が1日500kgと限界があること。「現在、近隣の同業者に協力を呼びかけています。せっかくの資源を捨てるのは、あまりにももったいないから」「リサイクルについて、真剣に考えてほしい、特に子どもたちに。教育の場に生ごみ処理機を置くなどして、現状を肌で感じてくれたら……」「食べ残し」を「資源」としてとらえる熱意と、ごみ問題への憂いが伝わってきます。

## アイデア7年肥飼料を生成

ここ今泉にある廃棄物処理の会社は、生ごみだけでも1日に3トン集めています。以前は全部焼却場へ運んでいました。このうちの食生活のごみを再利用できないものか、と考えた社長の菅野二郎さんは、7年前、これを飼料や肥料にする、という考えを思い立ち、実現させるために材料や機械などの研究を始めました。

「以前ごみについて勉強し直して、安全なごみは有効に活用できることを学びました。また、実験用の動物の繁殖にも携わっていました。それらが、食べ残しの飼料化というアイデアへと自然に結びいたのでしよう」

レストランなどから生ごみとして出される食べ物は、ポリバケツで集めて、処理機で発酵菌や水分調整剤(飼料用はパンくずなど、肥料用は米ぬか)を加えて、80度で約5時間、かき混ぜ、乾燥します。「高温で処理するため、有害な雑菌類は死滅します」

こうしてできあがった製品はこげ茶色で粉状、感触はおからに似ています。臭いはほとんどありません。水分が少ないので、常温でおよそ3年はもつとのことです。肥料としては、「家畜のえさに混ぜて使うと、健康になり、糞尿の臭いが減る」という実験結果が。肥料としても、作物が元気になった、と評判は上々。近くホームセンターなどの店頭に並ぶことになりそうです。

## 21世紀へ前進する海老名

10



## 問い合わせ

商業等の活性化事業は  
商工課(内511)  
市街地の整備事業は  
駅周辺整備室(内692)

# 「顔」のあるまちへ

小田急電鉄株式会社が開発する「都市マスター・プラン」で、海老名駅周辺を「広域的な拠点市街地」「海老名市の中心市街地」と位置づけています。これにて、市独自の個性を表す部分として「相模国分寺」・「伊勢山自然の高い丸井の出店が決定し、2002年の春にオープンが予定されています。

同地区の開発コンセプトとしては「面白味」「話題性」を前面に打ち出すよう検討されています。

市街地には、店舗を中心とした駅前施設整備、さらにはアミューズメント施設の設置が駅周辺の一

体感を持つよう計画されています。

本市には無い独自性を強調し、専門店街や余裕を持つ駅前施設整備、さらにはアミューズメント施設の設置が駅周辺の一

体感を持つよう計画されています。

行政、元地元商業者、住民、民間企業などいろいろな方々の協力を得て、具体的な事業の実施を

ます。

今後、TMO(まちづくり機構)を中心とした事業実施を

進めています。

ささらに、具体的な店舗などに積施設にするために、現在出

されています。

市街地としてふさわしい商業集

団地を目指しています。

計画期間は、おおむね10年で

あります。実施する具体的な事業策

については、5年以内の事業着

手目標としています。

安全で魅力あるまちづくりを

実現するため、現任出

されています。

まちづくり機関を

つとめています。

まちづくりを

実現するため、現任出

されています。

まちづくりを

</div





## まんまる赤ちゃん

9月5日に下今泉の畠で、「土の日」として梨のもぎとりが開催され、親子連れなどでぎわいました。

## ▶梨のもぎとり大盛況!



## フォトピックス

## ◀市民がつくる音楽祭

9月5日、文化会館で第14回市民音楽祭が開催され、市内で活動する21団体が一堂に会し、日々の練習成果を披露しました。



## ▼1チームで3種目に挑戦

1チームがソフトバレーボール・卓球・バドミントンの異なる種目の総合成績によって順位を競う、市民総合球技大会が海老名運動公園で行われました。



## ◀敬老のつどい開催

市内の75歳以上のお年寄りを招き長寿を祝う「敬老のつどい」が9月13日に文化会館で行われ、1337人が漫才や歌謡ショーなどを楽しみました。



小さいころ「物を粗末にすると罰がある」とよく言わるものでした。限られた資源がそれほど周知されていなかつた時代の

会長の時任さん(云231・0572)まで、

戒めの言葉が、今、重々響きます。菅野さんを見習い、アイデアを生かしませんが、地域の活性化につながり、さらには海老名の発展につながっていけばいいなど考えていました」と時任さん。これからも、「花」を通じた地域のつながりを大事にしたいという「花談の会」に興味がある同地区の人は、

海老名の発展につなげたい

花の育成を通して地域活性化  
中新田 花談の会

和氣あいあい サルビアの世話ををする会員

何気ないひとときに花の姿や香りに触れてしまつたことはありませんか。今回紹介する「中新田花談の会」(時任美枝子会長・会員26人)は、花を通して地域の交流を図ろうと集まりました。そして昨年行われた「かながわ・ゆめ国体」で各県の選手団を花一杯で迎え、疲れた選手たちにとつて一眼の清涼剤として役立ちました。この活動で一面見知りが集まり、「花を育てよう」と言い出したのがきっかけで、同地区的休耕田にコスモスを植えることから始めました。そして昨年行われた「かながわ・ゆめ国体」での成功が大きかったことから、今後も続けていくそうです。また、厚木駅周辺の歩道に並べられたサルビアのプランターも、会で行っている活動の一つです。今年の夏は非常に暑く天候が不順だったことから、毎日サルビアの花の育成を通して地域活性化を目指す「花談の会」が、地域の活性化につながる活動として注目されています。

## 編後記

小さいころ「物を粗末にすると罰がある」とよく言わるものでした。限られた資源がそれほど周知されていなかつた時代の